

第5回 各務原市新庁舎の機能を考える市民ワークショップ 議事要旨

日 時：2015 年 9 月 26 日（土）午後 1 時～3 時 00 分

場 所：産業文化センター 2 階第 3 会議室

出席者：14 名

各務原市：市長、鷺主企画総務部長、加藤管財課長、管財課：永井主幹、小林（広）、
小林（伸）、領木、大丸

パシフィックコンサルタンツ株式会社：小野崎、酒本、近藤、吉永

（1）次第

開会

1. 意見のまとめ方
2. グループ討議
 - ・これまでの意見のまとめ
3. 発表・意見交換

閉会

（2）参加者：班構成（五十音順）

1 班（5 名）	2 班（5 名） 手話通訳者 2 名	3 班（4 名）
末松 誠榮 馬場 忠久 山本 吉雄 新田 紀子 野中 好子	柴山 拓治 玉置 実三郎 横山 節男 花田 澄子 水野 友子	小川 清 加藤 琢磨 北川 静児 山本 光枝

（3）意見のまとめ

※発表の後の意見交換及び感想で出された意見や提案等も各班のまとめに追記・集約

1 班のまとめ

■市民が誇りに思い、魅力あふれる新庁舎

何があってもびくとしめない日本一の庁舎

- ◇災害時にも強い庁舎とする
- ◇市民の避難場所にせず、市役所としての機能を果たせるようにする
- ◇自家発電を取り入れてほしい
- ◇50 年～100 年先も残る庁舎
- ◇恒久的なデザインがよい

市民の意見をふまえ、明るく出入りしやすい庁舎の設計を！

- ◇庁舎の設計、デザインはコンペなどで、必ず盛り込むべき提案等を踏まえて行う。その際は、市民の意見を取り入れる、聞くこと（子どもや若い人の意見も必要）
- ◇市民の意見を設計の条件とする。例えば、防音はしっかりと（コスト面の工夫も）、全体的に明るく、出入りしやすい庁舎など
- ◇防音はコスト面も考えて、できる限りの対応をしてほしい

各務原の雰囲気にあったゆとりある庁舎

- ◇樹木や花壇などを設け、ゆったりとした空間のある庁舎
- ◇花壇などは市民のボランティアなどで対応
- ◇特徴をだし、シンボリックな建物とする
- ◇各務原らしさといえば航空産業のイメージ
- ◇各務原の特産品を販売するスペースを設ける
- ◇自然の光や自然の風も通るような空間デザイン（例：昼休みも明るい方がよい）
- ◇LEDを取り入れる
- ◇市の情報コーナー、カフェ（ちょっとよれる感じ）を設ける

機能を集約、そして利便性のある人的配置も！

- ◇公共機能の重要なものは集約されている庁舎がよい
- ◇関係する機能はまとまっているとよい
- ◇受付窓口のサービス向上を目指す
- ◇利便性のある人的配置
- ◇ATMがあると便利だが、庁舎内では面積をとるので外にまとめてあるとよいのではないか（休日でも利用可）
 - セキュリティの面も踏まえて検討すべき
- ◇人感センサーは取り入れてほしいが、ある程度の明るさはあった方がよい

2班のまとめ

■市民にやさしい、利用者の立場を考えた新庁舎

バリアフリーに配慮したトイレ

- ◇可能であれば、各フロアに多目的トイレを配置する
- ◇男子トイレにも荷物置き場を取り入れてほしい
- ◇子ども用は着脱式の補助便座があればよいのではないかな
- ◇フックの高さも使いやすい高さに（あまり高くないところに）
- ◇あまり高機能にはしない

安心、やさしい移動手段

- ◇階段の手すりは両側に高さを変えて2段に配置
- ◇1～2階にはエスカレーターもあると良い
- ◇エレベーターは外から見えるように（全部の階でなくても良い）
- ◇エレベーター、エスカレーターには音声案内をつける
- ◇エレベーターは車椅子の向きを変えないで良いものにしたい
- ◇高齢者だけではなく、乳幼児にもやさしいものにする

移動しやすい空間

- ◇庁舎全体、車いすやベビーカーが通りやすい通路にする
- ◇床材なども配慮をする
- ◇これからのモデルになるように
- ◇荷物が多くなっても外に出しておくことがないよう、設計段階でしっかりと収納スペースを確保する

落ち着いて相談ができる窓口

- ◇相談がゆっくり落ち着いてできる場所を確保する
- ◇福祉関係の部署を 1 階中心に！
- ◇証明書等は支所等で対応できる
- ◇健康、子育て、高齢者の関係がこれから増えると予想されるので、この関係課をまとめて配置する
- ◇税務関係は 2 階でも良い
- ◇市民利用の多い課を 1 階、2 階に配置する
- ◇福祉関係の課のある階にはキッズスペースを設ける

わかりやすい案内

- ◇文字の大きい、わかりやすい案内表示
- ◇視覚的にも分かりやすい、番号案内などの呼び出しシステム
- ◇総合案内は入口から見える場所に
- ◇案内の人の数を増やしてほしい。OBの活用も考えられる
- ◇どこから入ってきても見えるように配置する

3班のまとめ

■市民が訪れやすい、開かれた庁舎

市民も気軽に活用できる庁舎

- ◇多くの人の目につく 1、2 階部分に、窓口だけでなく、会議室や展示として市民の方々が利用できるスペースを設ける
- ◇住民の方が申込みなどしなくても利用できる簡易的なスペースをもつ
- ◇いこいの場所としての庁舎

オープンなイメージの庁舎

- ◇視覚的にさえぎるものを減らし、書類等を整理したクリアなイメージのもてる配置で統一する
- ◇運用面でオープンな庁舎
- ◇議員席と傍聴席を 1 つの平面に配置し、バリアフリーにも配慮した明るい議場
- ◇職員と市民のバリアをなくすような工夫をする（施設の配置や人的配置など）

訪れやすい、入りやすい庁舎

- ◇待合室に自販機を置く（喫茶室・コンビニ）などの少し休めるようなスペース、飲食のできるスペースを、1 階、2 階の低層部に配置する
- ◇コミュニティセンターとの棲み分け
- ◇居心地のよい待合スペースを設置する
- ◇自分の待順が分かるような（フードコートの機械など）

使い勝手のよい駐車場

- ◇ 200 台駐車できるスペースを確保する
- ◇ 庁舎の近くに確保する
- ◇ 障がい者の方への配慮をしっかりとする
- ◇ これからはドライバーが減っていくことも想定し、その時代にあった利用方法に転換できるように設計段階で検討するのもよいのではないか

（４）主な感想

「色々な目線から庁舎に対して意見を出せた」、「若い人や子どもたちから意見を出してもらうような場も必要ではないか」、「このようなワークショップはとても重要だと思う」、「参加してよかった」などの感想があった。

以上